

ジェットスター・ジャパン、初の通期黒字を達成 今後の成長戦略を発表

- 2016年6月期決算で営業利益13億円を達成
- 同営業収入は24%増の522億円
- 中国本土をはじめ新たな海外都市への就航を計画
- 2019年までに保有機材を28機へ増強する計画

ジェットスター・ジャパン株式会社(本社:千葉県成田市、代表取締役会長:片岡優)は、本日、2016年6月期決算(2015年7月1日~2016年6月30日)で、13億円の営業利益となったことを発表しました。2012年7月の就航以来初の単年度黒字となり、また2015年6月期の79億円の営業損失から92億円の改善を果たし、予定より1年前倒しで黒字を達成したこととなります。営業収入は前年度比24%増の522億円で、当期純利益は6,300万円となりました。

2016年度の搭乗者数は国内のLCCとして最多となる521万人(有償ベース)となり、平均座席利用率は前年度比7ポイント増の83%となりました。この1年間で有効座席キロは前年度比で22%拡大しています。

ジェットスター・ジャパン株式会社のCEO、ジェリー・ターナーは次のように述べています。

「お客様からのご支持と関係する皆様からのご協力をいただき、当初の予定より1年前倒しでの単年度黒字を達成することが出来たことを心より感謝いたします。4年前の就航時、3都市・2路線を3機の航空機で運航開始しましたが、現在は20機の航空機で国内外14都市・24路線まで路線網を拡充してまいりました。就航からの累積搭乗者数は国内のLCCとして最速となる1,500万人を達成し、国内線におけるLCCとしての旅客数シェアは53%^{*1}で最大となっています。ジェットスター・ジャパンは、『日本の空、世界の空を、もっと身近に。』というビジョンの下、引き続き安全運航を第一に、低運賃と確かな運航品質を継続しながらお客様のニーズに合ったサービスを提供してまいります。」

ジェットスター・ジャパンは、今後も充実した国内路線網を基盤としつつ、中国本土をはじめとして、日本からの訪問および大きく伸びている訪日需要の双方が見込まれる海外都市への就航を検討し、国際線のさらなる拡充を図ってまいります。また、今年度中に21機目となる機材の導入を予定しており、さらに市場環境や運航リソースの状況を見極めながら、2019年までに28機へと増強することを計画しています。

¹ 国土交通省 報道発表資料「特定本邦航空運送事業者に係る情報」(平成28年6月17日発表)を基に計算



■損益計算書*

(単位:百万円)

	2015年6月期	2016年6月期	増減	前年同期比
営業収入	41,981	52,238	+10,257	+24%
営業損益	▲7,945	1,305	+9,250	-
経常損益	▲7,529	153	+7,682	-
当期純損益	▲7,571	63	+7,634	-

※監査手続の実施状況に関する表示

本資料に記載された決算に関する情報は、会社法に基づく監査手続の対象外であり、本資料の開示時点において、会社法に基づく財務諸表の監査手続は終了していません。

以上

【ジェットスター・ジャパンについて】

「より多くのお客様に、低価格で安心・安全な楽しい空の旅をしていただきたい」という経営理念のもと、2012年7月より東京(成田)、大阪(関西)、札幌(新千歳)、福岡、沖縄(那覇)に就航し日本国内線の運航を開始しました。その後、名古屋(中部)、大分、鹿児島、松山、高松、熊本へと国内の就航地を広げたのち、2015年2月の香港線の開設を皮切りに同年11月の台北線、2016年3月のマニラ線へと国際路線網を拡充しています。現在、エアバスA320型機を20機保有し、日本国内最大のLCC*として国内外14都市、24路線で1日約100便を運航しています。

<http://www.jetstar.com>

* 国内線路線数(2016年8月現在)